

突然ですが100社創業して10年後残っている企業数は、何社あると思いますか？創業して10年ほどであれば、30社くらいが残っていると正しい方が多いと思いますが、実態は6・3社ほどです。残りの93・7社が10年内に倒産するか、閉鎖してしまっています。会社を長く続けていくということはそれだけ厳しいということなのです。

ほとんどの会社が数十年の間に倒産なり閉鎖なりでなくなりませんが、半面、日本には創業何百年にもなる会社も存在します。

100年以上続く企業を調査分析すると、以下の9つの

新連載

120年続く100年企業コンサルタントが伝える「つぶれない会社」をつくるために100年続く老舗の教え！

第1回

「100年企業」を創る9つの教え

藤間公認会計士税理士事務所 所長

藤間 秋男

共通項目が見つかりました。この9つの共通項目が100年企業を創る秘訣といえるのではないのでしょうか。

1つ目は、経営理念、家訓を大事にし、守っていること。

2つ目は、お客様を大切に、信用第一、品質重視に徹していること。

3つ目は、社員を大切にしていること。

4つ目は、伝統(理念、家訓、品質他)と革新(新商品開発、新販売方法、新技術の導入、IT化など)を両方行っていること。

5つ目は、コアコンピタンス(絶対的差別化)経営を追求していること。

6つ目は、最後まであきらめない「しぶとい経営」を行っていること。

7つ目は、バトンタッチの仕組みがあること(小さい頃から後継者に会社承継の教育をしている)。

8つ目は、新しい血(養子など)を経営に取り入れていること。

9つ目は、商売繁盛し続けること(「のれん」は、その代の者が磨きをかけていい状態で次に渡すこと)。

どれも当たり前前のごで表面的には取り繕うことができませんが、本質を徹底的に実行することは困難なことかもしれません。この9つの事項を

徹底することができれば、多くの企業が数百年続く会社になれる可能性が出て来ます。

100年以上続く会社は、この他に、「理念づくり」「ビジョンづくり」「商いづくり」を行っています。その時代ごとの変化はありますが、当たり前のことであるこの3つのもので、実際に徹底するというレベルまでには至っていないという会社が多いのです。

藤間 秋男(どうま あきお)

公認会計士・税理士・中小企業診断士・行政書士。1952年生まれ。慶應義塾大学卒業。82年藤間公認会計士税理士事務所開業。経営改善、財務強化、節税対策、経営計画、相続・事業承継対策などをテーマとした戦略と実践プログラムで好評を博す。現在有資格者40名を含む、総勢140名のTOM Aコンサルタントグループの代表。著書に「法人税節税チェックポイント78」他多数。